

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

自 己 評 価 票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みんなが笑顔で楽しく暮らせる日々を目指して ①利用者様が思いを伝えやすい雰囲気をつくれます。 ②安心安全安楽を保った環境をつくれます。 ③地域との交流が自由にできるよう配慮します。 としている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の姿を理念にしており、改めて唱和しなくても自然に取り組んでいる。職員は利用者の希望や個性を優先し、持っている力を発揮できるよう支援している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族様へは契約時に重要事項説明書に記載されてある理念を口頭でも説明し、ご理解いただいている。ホーム見学者などへは、玄関に重要説明書を掲示しており、また管理者が見学者の対応する場合はお話している。	○ 玄関に重要事項説明書以外であらためて掲示したり、来年度、グループホーム独自の広報を作成していく予定であり、そのなかで理念も載せていき、より御理解をいただければと期待している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	事業所行事の夏祭りや消防訓練の際は、入居者様と共に近所にお知らせを配布したり、交流がある保育所の園児の散歩の際は声を掛け合い立ち寄っていただいている。夏祭りは、地区の花火大会の日に予定しており、気軽に立ち寄ってもらえる環境を目指している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には可能な限り参加している。踊り等の団体様とも複数と積極的に交流を持ち、ある団員から別の地域行事へのお誘いを受けたりと輪は拡大している。また、地区の商工会に入会しており、商工会広報で自己紹介をしている。また、そこから青年会へと輪が拡がり昨年の夏祭りの際に協力いただいている。	○ 社会資源を今後も幅広く活用し、支えていただくほかにも地域に役立つことが何かないか考えていきたい。来年度の地域の中学生の見学ボランティアの受け入れを希望申請している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員体制が整ってから未だ4ヶ月程しか経過しておらず話し合いはおこなっていない。入居者様の友人や御家族様には同世代、独居の人も複数あり、踊り団体の来訪時には観客としてお招きしている。管理者は独居の方へ行政サービスに対しての説明等来訪時に相談援助をおこなっている。		来訪時に左述の方々などと交流機会を増やしていき、状況や力に応じ連携を持って役立つことがないかの気付きを各自が抱き、そのために職員間で意識の向上など連携を持って取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の項目を全職員が自己評価し、管理者は各自の評価後に項目を説明することで更なる理解を深め、各自が入居者様の支援や活動の意義・見直しが図れるよう取り組んでいる。	○	外部評価の結果は玄関に掲示し、自由に閲覧できるようにするとともに会議などで読みあわせを予定している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームからの報告や予定、課題について また地域での活動予定や行事などへの質問（認知症高齢者が参加できる環境であるか）等をし、そこでの意見を地域交流の場としてのホーム行事に取り入れたり、情報を得ている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は申請書類の提出等で区役所への出入りを行ない、そこで情報を得よう努めている。5月に区の介護センター栄養士様来訪し献立作成の留意点を御指導いただき文献も頂戴している。9月には市の行政指導も入っていただき様々な御指導をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある入居者様が現時点で居ないこと、職員体制が整ってから未だ4ヶ月程しか経過していないこともあり、ホームとして学ぶ機会は未だ提供していない。	○	資料等準備し勉強会として学ぶ機会を検討している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームとして勉強会を開催し、制度の理解、職員の意識向上に努めている。	○	今後も定期的に勉強会を開催していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から当日に至るまでの間、電話連絡をおこない入居者様や御家族の不安や疑問点に対しての説明と理解・納得を得られるよう努めている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、また入院された時点で御家族様に可能性としてあらためて説明し、相談をしていただけるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は入居者様方が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。表出が顕著でない方へは介護計画にて把握に努めるよう表出しやすい環境がつけられるような支援を周知し、それらの内容を把握し生活援助に反映させている。	○	ホーム内に相談・苦情箱を設置し、更なる意見、不満、苦情の訴えの表出を期待する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、職員から御家族様へ自筆の手紙を発送させていただき個々に合わせた状況の報告をしている。また管理者も定期的に電話や手紙、加えて生活の様子の写真の発送で報告させていただいている。	○	来年度、グループホーム独自の広報を作成予定であり、御家族様へも発送し報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は定期的に電話や手紙等で相談いただける環境の構築に努めている。職員も同じく月々の手紙や電話にて相談やお伺いをしており、いただいた御意見に沿って生活援助に反映させている。	○	ホーム内に相談・苦情箱を設置し、更なる意見、不満、苦情の表出を期待する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ(職員)会議を開催している。管理者は職員と共に介護業務に月の1/3程度入り、業務内で意見や提案を知る機会につなげている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	○	職員体制が安定してきており、今後職員と管理者のあらたまった話し合いの場を増やしていきたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月替りの職員リーダーを設定しており、リーダーは入居者の希望に合わせた行事などを計画し、それに合わせた勤務調整を行なっている。管理者は月の2/3程度は介護業務に入らず、入居者様や御家族様の状況変化や要望に対応できるよう、臨機応変に優先順位が変動できるよう工夫している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は現時点までない。	○	異動となる場合は異動先は系列グループホームとなる可能性が高く、事業所間同士の交流が多いため入居者様から異動者への訪問や職員間の引継ぎ、相談はスムーズにおこなえる。

(事業所名 グループホームシリウス前沢)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、職員個々に合わせた順序や方法で業務内で指導したり、自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。	○	職員体制が安定してきており、外部研修を受ける機会確保が可能となってきた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり、職員は他職員との交流する機会がある。職員のうち多数は前述のグループホームで業務研修を受けており現在の業務に生かされている。	○	上記同様にグループホーム協会主催の勉強会など交流の場に職員が参加できる機会の確保が可能となってきた。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務割の作成時に月に最低1度は連休が取れるよう工夫している。休日希望を毎月全職員に尋ね、可能な限り休日としている。行事や勉強会などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。	○	業務外で職員の親睦会を職員主導で開催する予定である。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上記のとおり、行事や勉強会などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫し、また管理者は職員と共に介護業務に月の1/3程度入り、個々の努力や勤務態度等を把握するよう努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態の方々との判断され申請時にお話いただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の状況によるが入居前に御本人様のホーム見学を打診している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様との談話で食事献立や行事立案している。洗濯物干しや畳み、食器拭きなど入居者様が主体の家事がある。また、地域とのネットワークづくりに入居者様からも普段の会話の中で情報提供していただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への通院援助を御家族様にさせていただいているところが多い。また、近隣の御家族様から自宅でとれた野菜や使わなくなったオムツなどを持参いただいたり、遠方の御家族様からも調味料が宅配されることなど有難い支援を受けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の状態を、御本人の生活暦として理解に努めている。入居後も担当職員が面会時や手紙にて御本人、または御家族の代弁者となり関係の橋渡しとなっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を重要視した支援ができています。自宅訪問や馴染みの店への買い物援助をしている。入居者様の友人などは職員も面会時など親しくさせていただき相談受けやすい環境に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	把握し支援している。現在は入居者様間で自発的に関わり支え合いがなされている。入院された入居者様へお見舞を希望されたり、介護度が高い方へ低い方が下膳の手伝いや注意呼びかけをしている。呼びかけの言葉に相手が不快になる場合など職員が支援する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	検査入院され(悪性腫瘍が見つかり)契約終了となった方へ友人の入居者様を中心にお見舞をしている。入院時に出た洗濯物を事業所で洗濯し届ける援助おこなう		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望、意向の把握は常時行なう。毎日決まった時間に入浴したい希望のため時間を調整したり毎晩の晩酌や指定の店への買い物等を実現している。体制が整うときは自宅訪問している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は御本人、御家族、市町村に加え、契約前に利用された介護サービス事業所職員からも情報収集をしている。入居後も継続して御本人、御家族、失礼にならなければ友人等からも日常の会話の中で生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握に努めている。現病既往歴で心身状態や過ごし方、有する力の現状を常時理解するのに重点を置く支援をしている入居者様もあり、他入居者様に対する把握意識もつよい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員体制が整ったのちではあるが、ケース会議を介護計画の短期目標期間にあわせておこない介護計画を作成している。会議には計画作成担当者と担当職員のみだが、事前に御家族様へは郵送で計画内容素案を提示しご理解とご意見をもらえる体制をつくっている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議を介護計画の短期目標期間にあわせておこない介護計画を作成している。状態変化に応じ期間を待たずに計画更新する可能性が生じた場合は速やかに作成できる体制はできている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出勤職員で各々の出勤時間内での個別記録を毎日記入する。また職員は個別に担当入居者様を受け持ち個別記録を参照に介護計画に沿った経過、考察記録を毎月記入し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族様が遠方に居られる場合や近隣であっても置かれている状況や要望に応じ行政への申請代行や保険証関係書類の送付先を事業所に変更申請したりといった対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	御本人が地域の行事に参加できるようにボランティア(友人)や御家族様の援助をいただいている。地域のボランティア団体として複数の団体から踊りや歌の訪問をいただいている。消防からは避難消火訓練の立会いやご指導をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退居(契約終了)者に対し、その可能性が強くなった時点で居宅ケアマネジャー様に相談し他のサービス利用の相談依頼をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護は対象となる可能性がある入居者様が現時点で居ないこともあり地域包括支援センター等との協議はおこなっていない。	○	今後、必要に応じて地域包括支援センター等との協働をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談にのっていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への相談を基本としている。職員も認知症に対する知識を身につけ、また、入居者様も馴染みの医師にて自ら相談をしており、共に話し合いをしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院では、看護師も入居者様を以前から知っている方が多く、御本人や職員などにアドバイスをしていただいている。職員も医師同様に相談をもちかけている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は管理者以外にも、病棟での洗濯物を引き受けることや他入居者のお見舞い援助等で職員も頻繁にお見舞に行き、病棟看護師等と頻繁に情報交換をし馴染みの関係にもつながっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に医療機関において常時、治療を有する必要となった場合は退居の条件となる。としており、悪性腫瘍が発見された事例は御家族様の意向で退居となっている。管理者は終末期の理解や勉強に努めている。	○	今後、事業所としての力を向上していき、医療機関との連携を更に密にしていこうと、御家族様 御本人様の希望があれば終末期にも対応できる体制、指針を定めていくことを視野に入れている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に同じ。現在まで重度化、終末期ケアを行なった事例はない。事業所の現段階の力では対応できず、備えとしての検討や準備もまだ行っていない。	○	上記に同じ。入居者様の高齢化にともない、事業所としての力も身につけていき、職員間の知識の共有等を行なっていくことを視野に入れている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	希望や必要性があった場合は、管理者や担当職員を中心に十分な話し合いや情報交換といった対応ができるような体制はできている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	コンプライアンスマニュアルを活用している。言葉かけや対応についても、個人の尊厳を大切にしており、職員は言葉かけが上目線にならないよう、日々より良い対応ができるよう努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	運営方針で思いを伝えやすい雰囲気をつくります としており努めている。また職員は入居者様を理解していく中で意向や適切なコミュニケーション技術を修得している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。入浴は定まった順番等はなく、その時間帯の中で希望に沿った時間に入浴できるような体制をとっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	契約時に理容・美容は本人の望む店に行くことを説明している。現時点では職員による散髪を望む方が多く、望まれた時に望まれた型に対応している。また、買い物希望時に職員と共に帽子やアクセサリーを購入される入居者様も多い。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や食事後の食器拭きは入居者様の日課になっている。調理や配膳も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。献立作成は日頃の会話の中で嗜好を把握した内容が取り込まれている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩の飲酒をされる方やお菓子などを所持品として購入している方が複数いらっしゃる。現病歴などを考慮しながら、可能な限り楽しみを持っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	状態に合わせたオムツ等の検討は常におこなっている。排泄パターンも把握できるよう努めており、負担にならない範囲でトイレへの声かけといった支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の午後に実施しており、定まった順番等はなく、その時間帯の中で希望に沿った時間に入浴できるような体制をとっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全室個室であり、就寝時間も特に定めてはいない。日中も居室や畳みスペースで個々に合わせて休息や昼寝をしていたいっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課として茶碗拭きや洗濯物たたみを役割としているかた。職員の依頼を受けて、お知らせを書いていたかた。定期的買い物や散歩をするかた等いらっしゃる。時季にはみずき飾りや畑の草取りもおこなっており得意分野の力を発揮いただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を優先に考えており、現金所持されているかたが多い。各々に応じて所持金での買い物もされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ先は希望される場所が多く、自宅や道の駅等がある。ご家族と共に温泉や地域の新年会に出かけられるかたもいらっしゃり、連絡や万が一の体制をこころがけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話を希望されるかたへ希望に沿って支援している。	○	希望に沿ってではあるが、入居者様から御家族様への年賀状作成援助を年末に検討している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽にお越しいただけるような雰囲気づくりや声かけをしている。小さな事業所にて、訪問いただく知人や友人と顔なじみの関係ができている職員もいる。踊り団体訪問時に観客としてお誘いしたり、水木飾りを貰っていただける方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を予定、実施している。知識の共有と実践の継続、意識向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。居室扉には鍵はない。玄関施錠は夜間のみとしており、全職員が弊害等を理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に心がけており、職員間で協力しながら取り組んでいるが、把握や配慮しきれていない状況もいまだある。	○	把握や配慮に対する意識、ヒヤリハットに気づける感性を働きながら全職員がトレーニングしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律になくすことはおこなっていない。包丁使用希望時に一律に断ったりはせず、状態に応じた安全の確保として見守りなどをおこなっている。使用することに安全が保障できる方ではハサミを所持している方もおり状態変化などは職員が常に把握している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やヒヤリハット(インシデント)は些細な事柄でも書面での報告を早急にしており、大きな事故に対しては管理者から再発への注意を大きく呼びかけている。全職員が内容や頻度と防止策を理解する。また、勉強会として事故防止も取り上げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は、定期的に普通救命講習や避難訓練、消火訓練を受講していく予定であり、今年度は実施済みである。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に予定、実施し、冷静な対応と消防計画の作成、活用により方法の理解に努めている。消火訓練の際は地域に参加を依頼している。日頃のネットワークづくりから協力関係を強くしていきたい。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	御家族様には契約時、また申し込みされた時点で共同生活の場としてグループホームでの生活を説明していく中でのリスクを説明している。入居後も生活のご様子を説明していく中で必要に応じてリスクについても報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見は常に把握するよう努めている。発見した場合は出勤者内での伝達やケース記録等でそれ以外にも報告。必要に応じては管理者にも速やかに報告が行き、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイリングや独自に表を作成し把握に努めている。それ以外にも通院後に変更があった場合は、申し送りノートを活用し速やかに全職員が確認できるよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に便秘の原因を追究し、水分摂取量や食事量の把握、運動の有無などを記録等で把握している。必要に応じて、かかりつけ医への相談も行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを状態に合わせて支援し、チェック表にて把握している。取り外した入れ歯は一箇所に保管し、状態を観察できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や献立は一覧できるよう表にしている。食事時は職員も同テーブルにて食事し様子や嗜好を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会を予定、実施している。他、感染/消毒マニュアルも常備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具の衛生管理は毎食後行なっている。食材も新鮮で安全な食材の使用と管理に努め、購入時も新鮮で安全なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は可能な限り出入りしやすいよう工夫している。外玄関にはスロープを設置している。敷地内の外柵は一部を常に開放している。玄関掃除や駐車場の除雪は、午前中の可能な限り早い時間におこなうよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みスペース1箇所、ベンチを置いた窓辺のスペース、ソファを置いたテレビ前のスペースを設けており、思い思いに利用いただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのものを持ち込ただけのようにしている。電子ピアノを持ち込んだり、自ら買い物に出かけて、物干しスタンドを購入したりされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気システムは常に起動している。温度調整への配慮は職員が注意しており、また床暖房は各居室で温度調整ができるようになっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳みスペースの段差の排除や腰掛椅子の設置、扉の開閉のし易さや台所内に入るスペースを広く採る、廊下や浴室の手摺りの設置や浴槽の高さ等の工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に合わせて過剰な介助をしないよう心がけ、自立している喜びや自信を持ってもらう。おおきな混乱や失敗に繋がる場合は必要な支援を検討し実践している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは畳スペースからスムーズに行き来できるような造りにしており利用いただいている。外周も畑があり回路できるようにもっており、短距離の散歩に利用いただいている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員体制も整ってきており、少しずつ基礎を固めている。職員は認知症の主症状と周辺症状を理解し、生活歴や個々の性格を事柄の検討をする際や日々のコミュニケーションの際には念頭に入れている。共同生活として、職員と入居者様方で共に理解し合って進んでいければと考えている。幸い社会資源も周辺に多くあり、地域密着にも今後も力を入れていきたい。